※令和４年度以降入学生用

学校番号	３０２４

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	(学)理数数学 演習β①	単位数	１単位	年次	３年次
使用教科書	数学Ⅱ、数学Ｂ、数学Ｃ（数研出版）						
副教材等	「新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C(ベクトル)」（数研出版） 「新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅲ+C(複素数平面、式と曲線)」（数研出版） 「新課程 スタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ・Ａ・Ｂ・Ｃ(ベクトル)（受験編）」（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

講義、問題演習、自宅学習課題、小テストを行い、基礎から応用まで段階的に実力の養成を図ります。大学入学共通テストや各大学の２次試験の過去問を取り入れ、総合的な演習も行います。

解答を丸暗記するのではなく、時間はかかりますが時間をかけて概念を理解するようにすることが重要です。予習は毎回確認します。自分で問題を解いてから授業に臨みましょう。問題演習の時間では、自分の考えを発表したり議論したりする活動も行います。

２　学習の到達目標

a:知識・技能
基本的な概念や原理を体系的に理解し、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
b:思考・判断・表現
事象を論理的に考察する力、事象の本質を認識しほかの事象との統合や発展を考察する力、事象を数学的に表現する力を養う。
c:学びに向かう力・人間性等
数学のよさを認識し、数学を活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学における基本的な概念や原理・法則を系統的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	事象を数学的に捉え、論理的・統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学の良さを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、事象を数学的に探究しようとする態度を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	問題研究	微分法・積分法 数列 ベクトル	a: 数学における基本的な概念・原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。 数学の考え方を利用して、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。 b: 事象を数学的に考察・表現したり思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学における数学的な見方や考え方を身につけている。 c: 数学に関心をもつとともにその有用性を認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	確認テスト 定期テスト 観察 など	確認テスト 定期テスト 課題提出 観察 など	パフォーマンス課題や、ワークショップでの成果 課題提出 観察 など

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度